

平成20年度 国立情報学研究所市民講座「未来へつながる情報学」

第8回「文化情報とコンピューター文化遺産を未来に継承するデジタル化の技術とは？」 デジタルシルクロードを例として

◆ 講師プロフィール

小野 欽司 (おの きんじ)

特任教授・国立情報学研究所 名誉教授

【これまでの歩み】

大学在学中「科学読売」という雑誌に国際電信電話会社（現在のKDDI）が人工衛星を使った宇宙通信を始めると言う記事を読んで大学院進学を断念し、1962年東京大学理学部物理学科を卒業後国際電信電話に就職し研究所で宇宙通信の研究に取り組みました。地球を約3時間で回るリレーと呼ぶ人工衛星を使った日米最初のTV宇宙通信でケネディ大統領の暗殺を中継する歴史的瞬間の現場にいました。私は移動するリレー衛星の軌道を計算しアンテナで追跡する実験を担当していました。これは「NHKのプロジェクトX」でも放映されました。

1970年にスタンフォード大学大学院に留学、ARPAプロジェクトに出会いインターネットの基礎となったパケットやプロトコルに研究転換し、日本での取り組みのさきがけとなりました。KDD研究所長を経て1993年学術情報センター教授に就任、国立情報学研究所の設立に取り組み、同研究所の教授・研究総主幹を経て2005年に退官しました。以後特任教授として2001年よりユネスコと協力して開始したデジタルシルクロードの研究をしています。

これまでの研究テーマはネットワーク、情報システム、分散マルチメディア、デジタルアーカイブなどです。

紫綬褒章、科学技術庁長官研究功績者表彰、電子情報通信学会業績賞、IEEE ライフフェロー、電子情報通信学会・情報処理学会各フェロー、早稲田大学客員教授、工学博士（東大）。

【デジタルシルクロードについて】

16年前に私は、今は亡き猪瀬博先生（国立情報学研究所初代所長）から誘われ、国立情報学研究所の前身である学術情報センターへ移り、新しい情報学に関する研究を推進して参りました。先生は学術情報センターを発展させ、わが国における情報学の中核的な研究機関として国立情報学研究所の設立に努力され、特に情報科学技術と文化の融合に関する研究も重視されていました。

私は2001年から、ユネスコと協力してデジタル技術でシルクロード文化遺産の保存と継承を目的としたデジタルシルクロードの国際共同研究を開始してそのプロジェクトリーダをして参りました。

デジタルシルクロード・プロジェクトは、過去から現在までに調査収集された膨大な文化資源を、デジタル保存し未来へ継承、これらの文化資源へのアクセスと活用を可能にすることを目的としています。対象とする文化資源には、「東洋文庫所蔵」のシルクロード関連の貴重書、地震で破壊されたイランのバム遺跡、戦禍で破壊されたバーミヤンの大仏群などがあります。他に研究者やシルクロード愛好家が撮った写真やビデオなどの最近のコンテンツもあります。

これらのリソースを歴史的、考古学的、地理的に、最新のデジタル技術を用いて処理し、検索し、分析し、公開し、多面的に活用する事例を紹介いたします。これらには**[バム遺跡の3D復元](#)**、**[シルクロード・イマジナリミュージアム](#)**、**[古都北京デジタルマップ](#)**、**[シルクロード談義](#)**など色々あります。

デジタルシルクロード Web site

<http://dsr.nii.ac.jp/>